Japan Offical Fishing Instructer Osaka

じょふいおおさか

JOFIOSAKA Vol.27

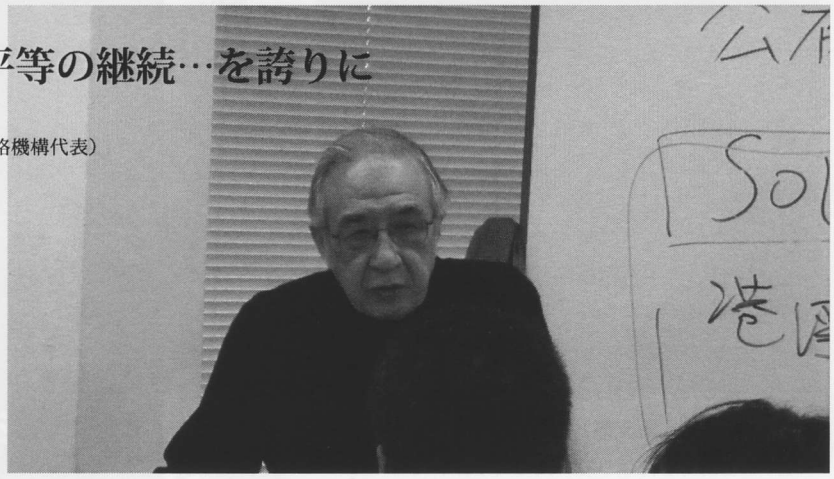
平成23年冬号

2011年(平成23年)1月30日発行　発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構　http://www.jofi-osaka.com
本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457　広報部:大阪市北区天神橋3-8-15-301 tel06-6358-4414 fax06-6358-4445

ご挨拶

組織内の意識はすべて平等の継続…を誇りに

來田 仁成（大阪府釣りインストラクター連絡機構代表）



地球温暖化とはうらはらに、寒波続きの冬でした。このぶんなら、山々の奥深い渓の魚たちも、雪の中で穏やかに解禁日までの安息の日々を過ごすことができるでしょう。

さて、日ごろから釣りインストラクターの諸活動に積極的なご協力いただき誠にありがとうございます。これも平素から「釣りインストラクター」がなにをなすべき資格なのかと言うことに深いご理解がある皆さんが揃っているから出来ることなのだと感謝しています。

とかく人が集まれば、組織というかたちにとらわれ、組織の中の指令や伝達の手順などによる、相互理解の齟齬から発したちょっとした感情の行き違いが起こりがちです。「釣りクラブ」などという趣味の集まりに過ぎなかった集団の中に、委員、委員長、会長などというポストが生まれ、指令とか慣例などという、本来趣味の集団にあってはならない「地位」という錯覚が生じる結果の現象です。

JOFI 大阪にはそうした組織内の地位などという感覚はきわめて希薄であることをうれしく思っています。JOFI とは、同じボランティア資格を持ったもの同士が集まっただけのもので、そこに長という名がつく人と、つかない人の差があってはならないフラットな組織でなければなりません。たまたま委員に指名されたら、それは世話係なのだという意識が、みんなに理解されているからこんなふうしてこられたのだと考えています。だから JOFI 大阪には会長がなく、便宜的に外部に向かって、みなさんの意思を取りまとめて発言する責任者としての代表しか存在していません。

在来の釣りクラブや団体では、毎年寒くなるとさまざまな不協和音が発生するのが通例になっている気がします。つまり釣りのシーズン中は釣行に忙しいが、シーズンオフともなれば、つい仲間が集まって、アルコールで温まることになります。無邪気に釣りの話だけしていればいいものを、時には人の噂話にかわり、その場に居合わせた人だけが仲間であり、そこで交わされた意見だけが正論で、正しい解答だという錯覚を起こすこともあるでしょう。そうした噂話の積み重なりが不和の元になるのではないかと、半世紀近くにもなる釣りの組織内での感想からそう感じています。

人が集まる機会が重なるほどに、そしてお互いが親しくなるにつれて、その危険は増大します。

幸いなことに JOFI 大阪には、心許せる仲間でありながら、お互いに踏み込まず、一見淡く見え、それでいて思い遣りに溢れた付き合いが続いています。ボランティアですから、だれもが強制することなく、それぞれの都合と意思によって事業への参、不参をきめていって、だれもが何の違和感もなくこの年月を過ごしてきました。

釣り人の組織として稀なる存在であると感じ、そのことを、限りなく誇りに思っています。今後も趣味の組織とはそうありたいものだと思います。

争うべきは釣りの仲間ではなく、日々悪化をたどる自然環境の破壊であり、モラルの低下です。海にも川にも様々な問題が山積しています。そして一番悲しいのは、「釣り人」とひとからげで呼ばれている人たち自身の行為による環境破壊です。また、それを知りながら、平然と手をこまねいている人々の存在です。たかが年に一度や二度のごみ清掃をしたからといって、それは免罪符にはなりません。流行り言葉になっているエコなどという軽々しいものではなく、もっと釣り師らしく、腹の底から自分の意思で決めた「釣り場を死滅させない行動」を日々意識しながらの積み重ねこそが大切なのであり、釣りインストラクターとは、それを実践し、よびかける人々の集団だということを、誇り高く、もっと声高に主張しながら、今後も仲間を増やしていきたいと思います。

報告1

夏の「堺２区フィールド環境調査」(8/26)
第27回大阪湾チヌ稚魚放流も同日開催！

堺の丸高渡船がチヌを運んで来ました。
待ち構えていたのは来田代表です。

8月26日（木）、「堺２区生物共生型護岸実験施設におけるフィールド環境調査」を行ないました。参加者は一般37名、スタッフ関係者を含めると50名近く。いったいどんな生物がいるのでしょうか？

朝8時半から実施した「釣獲調査」では、小アジ、カタクチイワシ、セイゴ、カマスなどが釣れましたが、釣り場としてはいまいち。底質がわるく、潮が入れ替わりにくと思われます。

11時から「水質調査」を実施。参加者にも実際に調べてもらいました。表面の水温は31℃、底の水温は29℃。濁りは濃い緑と茶色の混じった濁り色で、透明度は1.5m。塩分濃度は表層14.5‰、底が25‰。底水のpHは7.5、DOは6mg/lでした。溶存酸素量は適当にあり、生物にとってそれほど悪い状態ではありませんが、赤潮の濁りが大変気になります。

水質調査が終わった時間にちょっとしたサプライズがありました。この日は来田代表以下JOFIメンバーも参加して、日釣振大阪支部と全釣り協合同での「大阪湾チヌ稚魚放流」を朝から行なっていたのですが、その一部がこの実験施設まで運ばれてきたのです。素晴らしい連携プレーでした。

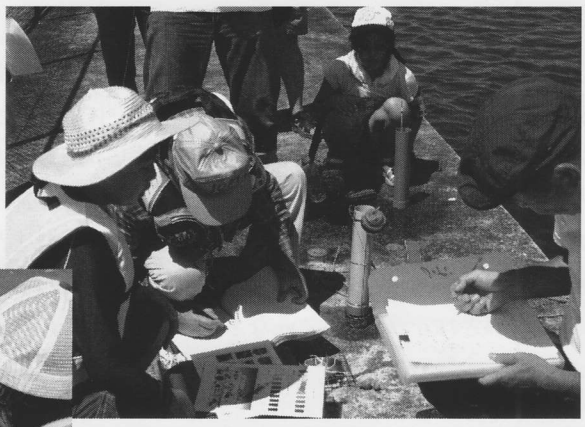
11時半から、潮の引いた生物護岸に下りて「生き物調査」を開始します。

生物共生型護岸はこんな感じで一部が干潟になっています。

魚類では、カタクチイワシ、マハゼ、ヒメハゼ、ヒイラギ、シマイサギ、コトヒキに、ウナギ。カニ類ではスナガニが見つかりました。小さい体に似合わずとても獰猛な性質らしいです。壁に張った保護シートの間にケフサイソガニがたくさん見つかりました。フジツボ類ではドロフジツボ、ヨーロッパフジツボなどが見つかりました。藻類はヒメアヤギヌ、ユレモ、アオサなど。貝ではイガイの仲間のコウロエンカワヒバリガイが岩に多くついていました。その他スジエビ、イソゴカイなどが採れました。

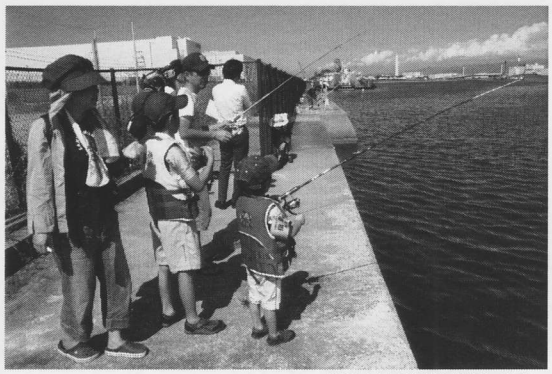
種類はそれほど多くはないと思います。しかしこんな場所の、こんな小さな干潟でも、自然さえ戻れば生物が戻ってくることが分かっただけでも良かったと思います。

参加された方から「将来、湾岸が全部こんな砂浜になるんですか？」というご質問がありました。しかしまだ実験施設の調査が始まったばかりです。きれいな大阪湾を取り戻せるのはいつのことかと、みなさん心待ちにしているんだと思いますが、私たちがこれから調査する内容がどのように反映されるのか？　そういうことにも力を入れつつ、市民による環境調査を続けていきたいと思います。（報告：萱間）



皆さんに水質調査をやってもらいました。

鍋島先生が駆けつけてくれたので、生き物について楽しく学ぶことができました。



釣りによる調査も行ないます。

報告2 みらい園のぞみ園釣り教室（8/28、9/5）

恒例の大阪市立みらい園・のぞみ園の釣り教室を行ないました。8月28日は座学。JOFI大阪のメンバー7名が、子供達と楽しく釣りについての講義と仕掛けつくりの実習。午前10時から午後3時までゆっくりやりました。居眠りや退屈をさせないよう、講師達はおもしろい話術を心がけました。

9月5日、淀川河川敷にて実釣のハゼ釣り大会。JOFI大阪のメンバーも16名と加勢があり助かりました。8時から会場準備に取り掛かる。今年は格別の猛暑で、熱中症等を心配して、テント5張りに補助シート1張りを加えて対応。一人の事故もなく子供達を楽しく終始出来たことは大きな成果だったと思います。

11時、先生と子供達が到着。近藤支部長より「最後に付近の河川敷のゴミ拾いまでを全員でしっかり行うよう、そこまでが今日の釣り大会である。また暑いので30分くらい釣りをしたらテントで涼を取り元気をつけて再度釣りをするように」とあいさつと注意がありました。

みんなで楽しく弁当を食べたあと、はやる子供達を抑えながらメンバー付き添いで竿を出します。子供達はゴカイを平気でハリにさして振り込んでいます。そのうち5～7cmのハゼが上がりだすと暑さを忘れてはしゃぎ楽しんでいました。

座学のときに「魚釣りは釣って殺生食べて往生」と言いましたが、2時頃より釣ったハゼのカラ揚げ試食になると、ハゼの入ったバケツが次々と到着し、料理担当の日高サンがナイフで背開きに。横で総出で火と対面してカラ揚げにしていきますが、子供達はカラ揚げを待っている状態が続きます。「こんなところで食べるのは本当にうまい！」と屈託ない笑顔で自分が釣ったハゼの味をかみ締めていました。（報告：川村）

熱中症にたいへん気を使いながら開催しましたが、皆さんの笑顔が見れて本当に嬉しかったです。

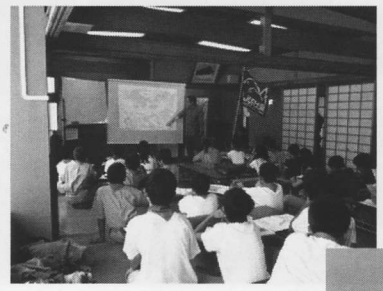
報告3 ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り章考査会（9/19）

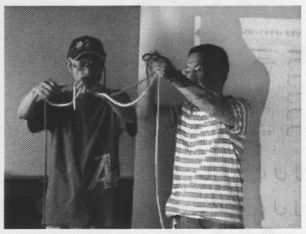
3連休の谷間、9月19日、日本ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り章考査会の応援を行ないました。

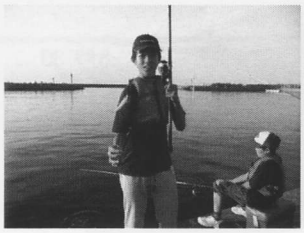
受講生は31名で、東大阪、柏原、和泉、堺と大阪市内の各地区から参加。講師を担当するインストラクター9名が「岬町立淡輪公民館」に集まり、9時30分開会式。ボーイスカウト特別仕様の「技能章釣り章講習考の査会資料」教材を配り、田隅広報部次長の協力によるプロジェクターを使用した座学を行います。筆記テストも今年からJOFI大阪作成の問題を2問を追加しました。

検定の終了後、15時から淡輪漁港で実釣です。17時30分頃になるとイワシにアジが混じりだし、隊員の多くから歓声が上がり、18時10分に全ての行事が無事終了しました。

終わってからも波止の照明の下で釣れたアジやイワシをテンプラにして食する団員もあり、楽しそうでした。（報告：物部）





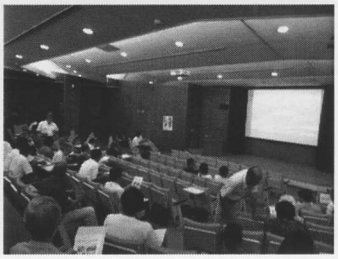


報告4 第3回「大阪湾生き物一斉調査」結果発表会（9/23）

9月23日、大阪市立自然史博物館にて「第3回大阪湾生き物一斉調査結果発表会」がありました。一斉調査日は5月29日、調査箇所は17カ所、参加人数は792人。調査による出現種は474種、初確認の重要種は10種（コアマモ、アダムスタマガイ、クロイロカワザンショウ、ツボミガイ、オチバガイ、スネナガイソガニ、カワアナゴ、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ）でした。私たちは5月の調査に加えて8月にも堺2区の生物共生型護岸の調査を担当しましたので、結果発表を行ないました。（報告：萱間）

各団体の報告パネル。

この発表会は自然史博物館のホールにて9月の連休に毎年実施する予定です。

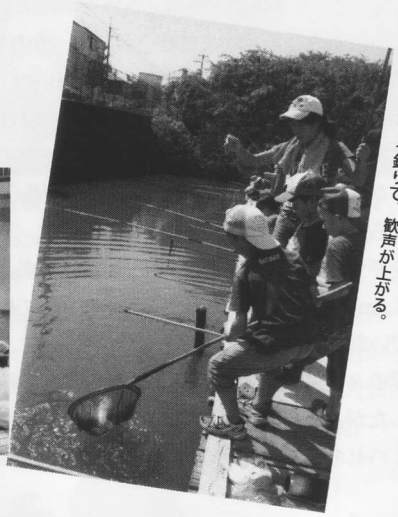


報告5 柏原市釣り教室（6/5～9/26）

第 15 回柏原市釣り教室は、前期教室を3回（6月5日、6月 19 日、7月3日）後期教室を3回（8月 21 日、8月 28 日、9月8日）行ないました。前期教室には 25 名、後期教室には5名が参加しウキやルアーを作ったり大和川でキャスティングの練習をしたり、ハスやコイを釣ったりして楽しく釣りの勉強をしました。仕上げは9月 26 日「千早マス釣り大会」です。出席者は9組 55 名で皆さんたくさんのニジマスを楽しく釣っていました。講師は中野・奥村・宇須、小松・森脇が担当。（報告：森脇）

報告6 八幡市フィッシング教室（9/18）

9月 18 日、地元の親子約 40 人が参加して、毎年恒例の八幡市教委主催「八幡市フィッシング教室」が開かれた。公認釣りインストラクターが 11 名協力。最初にさくら小学校の体育館で釣り道具と釣りマナーについて説明。続いて志水農家組合釣り池センターで親子が釣り糸を垂れた。（報告：吉川）



初めてのコイ釣りで、歓声が上がる。

報告7 寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室（9/25）

9月 25 日、「平成 22 年度寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室」を、参加者 33 名、協力者 18 名（スポーツ少年団4名、大学生4名、インストラクター 10 名）の 51 名により、翌日深目漁港で開催する予定でしたが、台風が日本列島関東方面接近のため、開催するかどうか決定できませんでした。

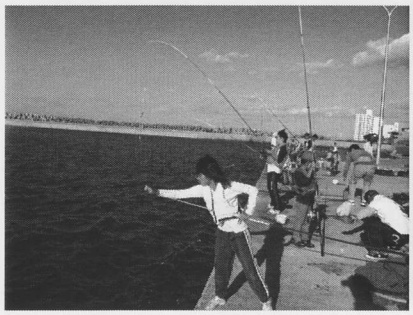
当日早朝、餌等を依頼していた釣具店に電話確認し、天気予報にも注意報等が発令されていないので、開催を決定。先行するインストラクターに連絡し、6時 30 分出発してもらいました。

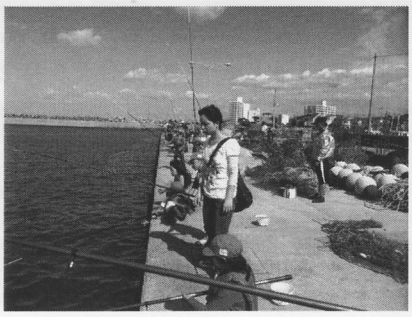
私は保護者と同行するため、寝屋川市役所へ集合しましたが、8時 30 分になって、現地到着インストラクターから強風と波が高くとても釣りをする状況でないことの連絡があり、急進淡輪漁港を調査してもらって、開催場所を変更しました。

10 時に親子を乗せたマイクロバスが出発。12 時に現地到着し、淡輪漁港にある公園で昼食をとり、まずは川嶋責任インストラクターで釣り教室開催です。危険な魚「ハオコゼ」「クサフグ」の現物を見てもらい、子供だちからの質問等も終了したので、仕掛けをセットして実釣開始。

すぐにイワシが擬似針に掛かり、しばらく釣れない時間がありましたが、以降はイワシの入れ食い状態が続きました。生きでいる魚に触れなくて困っている子、竿も両手も顔にもイワシのウロコを付けて笑顔になっている子、一人 30 匹以上で三桁釣りの班もあり、皆楽しんでいましたました。

終了は4時 30 分でしたが、持ち帰りのクーラーに釣れたイワシが入らなくなり早めに終了。竿とリール及び波止の清掃をして、谷川スポーツ少年団本部長から挨拶、インストラクターの講評を行ない帰途に着きました。釣れすぎるイワシのため全員が非常に疲れましたが、子供たちが魚と触れあい、喜ぶ顔が見られたことに満足しました。（報告：物部）





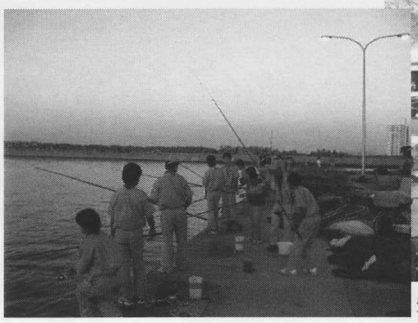
台風で心配しましたが、素晴らしい秋晴れの下、イワシがいっぱい釣れて楽しい一日になりました。

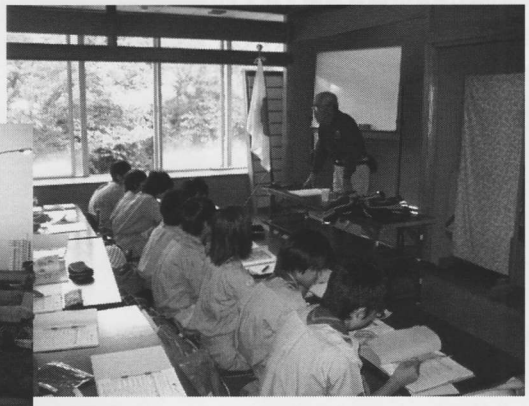
報告8 ボーイスカウト南大阪地区の釣り章考査会に協力（10/23）

10 月 17 日、淡輪にて、日本ボーイスカウト大阪連盟南大阪地区の技能章釣り章講習・考査会において、釣り指導を実施しました。

釣りに関する講義・仕掛け実習・考査試験終了後、秋晴れの中、みんなイワシを釣り上げ、釣り章考査に合格し、帰路につきました。

今日一日、釣る楽しみ、料理する楽しみ、食べる楽しみを体験されたと思います。釣り上げた魚を美味しく食べて頂き、その魚の命の大切さを実感して欲しいです。我々人類が食物連鎖のピラミッドの頂点にいる事の意味と使命が、これから未来にどれだけ大切なのかを問いかけたいと思います。また、家族・友人と、そのようなお話しを楽しい思い出話しの続きにして頂ければと願っています。指導にあたりました釣りインストラクターは、川嶋、川村、栗林、清水、中島、房野です。（報告：清水）



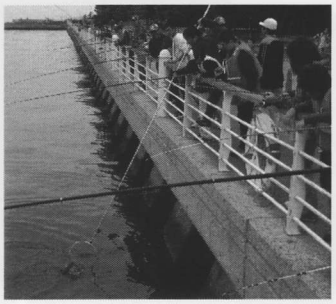


淡輪漁港にて。

報告9 舞洲で釣り大会に協力、水質調査講習会等を行ないました。（10/24、10/31）

10 月 24 日（日）、舞洲シーサイドプロムナードにて、日本釣振興会大阪府支部主催による恒例の「ファミリー海釣り大会」が開催されました。参加者 100 名あまり。釣具業者さんだけあって、賞品がたくさんある大会です。イワシ、アジなどが結構釣れ、参加者は手軽な釣りを楽しみました。JOFI メンバーは水質調査講習や初心者釣り教室をお手伝いしました。（報告：物部）

2 回目は 10 月 31 日（日）、同じく舞洲シーサイドプロムナードで、今度は大阪市青少年指導員連絡協議会主催による「中学生親善魚釣り大会」です。日釣振大阪府支部からの依頼で、釣りインストラクター 11 名でお手伝いしました。参加した中学生は 140 名で、スタッフは 40 名ほど。回遊魚の時合はほとんどありませんでしたが、それぞれのグループで楽しみ、また他の地域の中学生や引率の青少年指導員との交流を楽しんだようです。（報告：萱間）



毎洲シーサイドプロムナードは、2009年から3年間「社会実験」を行ない、昨年5月にようやく釣場として解放された所。私たちの手で作った釣場だということを忘れないでいただきたいと思います。

平成23年度「大阪湾水質調査員」募集中！

JOFI 大阪メンバーは「大阪湾の水質調査」としても活動しています。釣りをやるだけではなく、釣りをやりながらも自然環境を科学的に知る作業を続けると、魚の行動が読めるようになりますよ！

募集人数

A 調査員（定点調査員）

B 調査員（任意点調査員）…AB あわせて 15 名程度

C 調査員（目視調査員）15 名程度

調査期間：平成 23 年 4 月～12 月（7～9 月が重点期間）

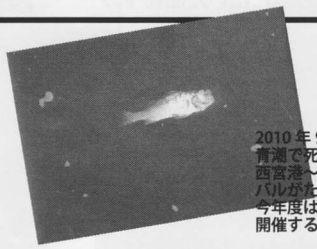
参加資格：水質調査員になるための資格は必要ありません。AB 調査員は水質調査器具の使い方について研修会を行いますので受講してください（5/4 研修会開催予定）。

費　用：無料（調査キットは終了後返却していただきます）

謝　礼：ありません

申込み先：NPO 釣り文化協会／大阪市北区天神橋 3-8-15

fax06-6358-4445　Email=jimukyoku@turibunka.or.jp



2010 年 9 月 26 日、目視調査員の報告により青潮で死滅した魚を確認。
西宮港～芦屋浜の海色は青白く、セイゴやメバルが大くさん浮いていました。
今年度は 5 月の連休中に水質調査員研修会を開催する予定です。

＜平成 23 年度水質調査員申込書＞

住　　所：〒

氏　　名：

生年月日：

自宅電話：

携帯電話：

FAX 番号：

メール：

希望場所：

報告10

第５回「大阪湾 53PickUp!」清掃大会
チャリティー釣具大交換会＆ランチパーティー開催！（11/7）

11/7「大阪湾 53」は、現場で釣り人の厚い協力もいただき実施できました。翌日、大阪府港湾局のご協力で処理工場に運び、無事終了しました。釣具交換バザールも大盛況で、たいへん楽しいイベントでした。皆さんありがとうございました。

【石の上にも５年目！】

今年は声をかけるまでもなく手伝ってくれる人があり、声をかければ、臭いゴミでも一生懸命集めてくれました。立ち禁に入って釣っているような人は無関心な人が多かったのも事実ですが、一般的な釣り人のほとんどは笑顔で手伝ってくれました。５年で、少しずつですが意識が変わってきたんだと思います。

イベント参加者は 53 名ですが、実質参加者はプラス 40～50 名で 100 名近い数となりました。今回の成果は、可燃ゴミ 150 袋、鉄くず・缶・ビン 23 袋、タイヤなど粗大ゴミ少々でした。

作業時間は 8 時半から 11 時。清掃した地点は、①貝塚人工島北西面とその周辺道路　②貝塚人工島南西カド桟橋（通称プール）　③泉佐野港旧フェリー乗り場　の３カ所です。

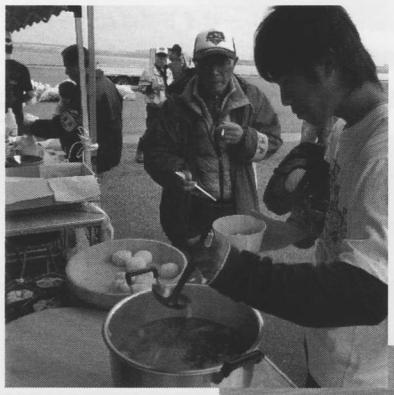
翌日、２ｔトラックに満載して２回ゴミ処理工場に運んで完了しました。１週間もすればまたゴミがいっぱいになるのかもしれないのですが、私たちの行動を見て、今回泉佐野にいた釣り人が全員協力してくれたように、地域の意識や行政の市民活動への支援の在り方もいつかは変わってくれるのではないかと期待しています。

【大人気だった釣具交換会バザール！】

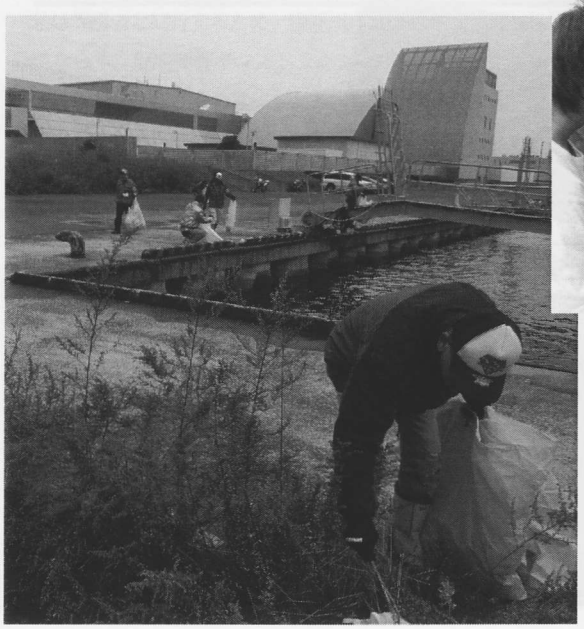
人を集めるために、お楽しみを増やす企画を実行委員会では考えました。それが「釣具交換会バザール」です。

参加費は 500 円ですが、参加費代わりに不用になった釣具を持ってきても、釣具交換券 500pt. 分をもらえるというものです。この券で協賛メーカーからいただいた品物やみんなが持ち寄った中古釣具と交換できます。これが大盛況で、とても喜んでいただきました。追加で購入していただいたチケットも多く、運営費収入にもなりました。

ランチパーティーも盛り上がりました。タチウオの骨せんべい、鮎のフライがおいしかったですね。おにぎりや鶏団子汁も旨かった！労働の後だったからでしょうか？　ご協力いただきました皆さん、ご協賛会社の皆さん本当に感謝申し上げます。（報告：萱間）



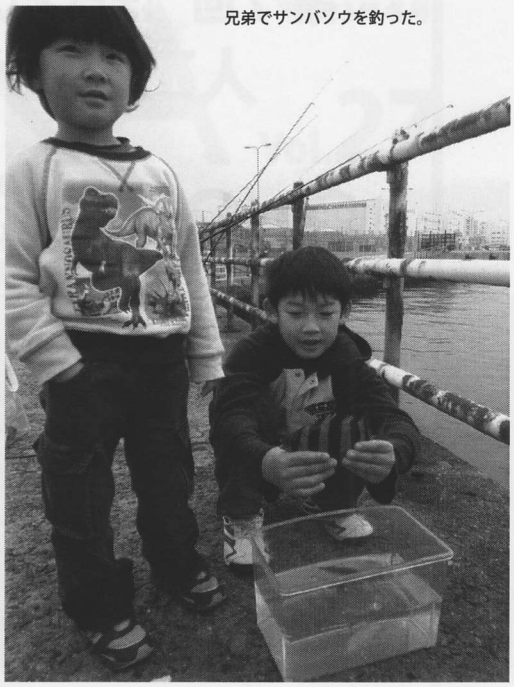
今年もやります！（11/6 開始予定）
楽しいゴミ拾い大会にしましょう。



【主催団体】NPO 法人釣り文化協会／ NPO 法人水辺基盤協会／ NPO 法人環境教育技術振興会
【協力自治体】大阪府、貝塚市
【協賛メーカー】有限会社エバーグリーンインターナショナル、株式会社ウイング黒鯛工房事業部、冨士灯器株式会社、株式会社ヤマリア、谷山商事株式会社、株式会社ハヤブサ、株式会社シマノ釣具事業部、東レインターナショナル株式会社フィッシング部、株式会社ザップ、マルキュー株式会社、株式会社がまかつ、有限会社バスデイ販売、株式会社カツイチ、株式会社岳洋社、株式会社ラッキークラフト、株式会社サンライン、フィネス、株式会社ジャッカル、株式会社ボナンザ　【協賛ルアービルダー】ヒヨコブランド、ティート、アカシブランド、津波ルアーズ、ブライトリバー、ツートーン、クローラー、4s、チェスト 114、ガウラクラフト　【協力団体】W.B.S. ワールドバスソサエティ／ JOFI 大阪／全日本釣り団体協議会

報告11 大阪南港 魚つり園で「秋の釣り大会」(11/14)

11 月 14 日、大阪南港・魚つり園で「仲良くなろう！」をテーマ、秋の釣り大会を開催しました。主催は魚つり園。私たちはいつも通り釣りの巡回指導を行ないながら、釣り指導や検寸、大会運営を行ないます。10 月 10 日に予定していた釣り大会が荒天のために延期したものですが、この日は天候もよく、過ごしやすい釣り日和でした。来場者は 160 人ほどで、イワシ、サバ、フグ、サンバソウなど 40 名が釣った魚を検量し、秋の一日を楽しみました。(報告：田隅)


兄弟でサンバソウを釣った。

親子で仲良く釣った、フグ？

報告12 堺２区ワカメイベント (12/12)

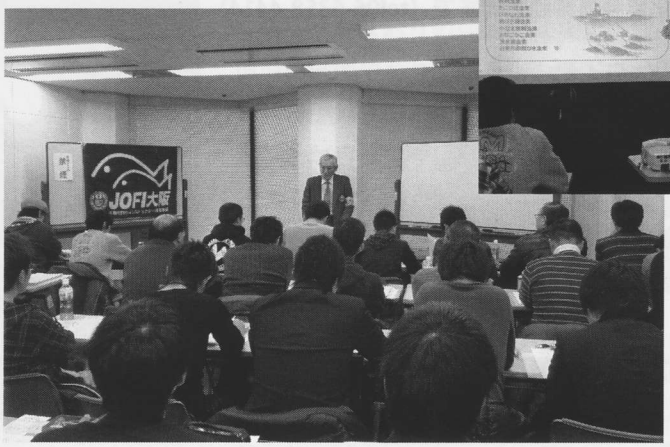
12 月 12 日日曜日、堺２区生物共生型護岸実験施設にて、大阪湾見守りネット主催の「みんなでワカメを育てよう！」イベントが開かれましたので参加しました。午後から来られる一般参加者のために、ワカメを植え付けるロープの制作を少しお手伝いさせてもらいました。ワカメの苗をロープに巻き付けて、水深１ m ぐらいで浸けておき、2 月 27 日に収穫祭を行う予定です。

ちなみに当日の堺２区の水質は、水温＝表面 11℃／底（2 m）16℃、塩分濃度＝表面 14‰、底 30‰、溶存酸素＝表面 7.5mg/l ／底 6.5mg/l、透明度＝2m 以上あり測れず（4 m 以上）、風＝西微風、目視した生物＝チヌ 40～50cm10 匹以上でした。(報告：萱間)

残念ながらこのワカメ、厳しい気候により枯れてしまいました。海を育てるのは難しいものです。収穫祭は勉強会に変わりますが、今後のためにもぜひお集まりください。

報告13 公認釣りインストラクター試験 (1/22～23)

1 月 22～23 日、全日本釣り団体協議会主催「平成 23 年度公認釣りインストラクター講習・試験」(大阪会場) をヒューマンカレッジ大阪校にて開催。今年度の受講者は 37 名。講習は釣りインストラクター連絡機構からの選抜講師と、大阪府水産課・藤林栄蔵氏があたりました。受講された方は指導者としての基本的な知識を持たれたわけですが、今後各地で活動する時にはインストラクター同士が助け合えるように、今後も連絡を取り合っていただきたいと思います。JOFI 大阪としても各個人の活動を支援していきます。(報告：萱間)



原稿募集

JOFI 大阪広報部では、公認釣りインストラクターの皆様が日頃、釣りに対して感じていること、また人生を変えた釣りの思い出や、感動した出来事、将来に残したいことなど様々な思いをお書き下さい。テーマは自由です。エッセイでも、ポエムでも、評論でも結構です。イラストや写真を見せていただくのも楽しみです。各人の釣りに対する思いを何かの形で語って下さい。

送り先＝〒5770804 東大阪市中小阪 1-5-20 来田仁成宛　　メールは chinunoumi@jeans.ocn.ne.jp

第７回　ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム
人工島から考える陸と海のつながり

2/26

●会場案内

【関西国際空港】

●建設事務所棟
第２部会場　3F：映像鑑賞　1F：バス乗降車
第３部会場　5F：フォーラム会場（催し会場）

●ホテル日航関西空港３Ｆ　エアロプラザ
第２部受付（受付時間は12:00～13:15）
懇親会会場

【りんくう公園】

●りんくう公園
第１部会場

●南海電鉄
りんくうタウン駅
第１部集合場所
改札前 9:00 集合

※公共交通機関でお越しください。

日時：平成 23 年 2 月 26 日（土）
場所：関西国際空港および周辺

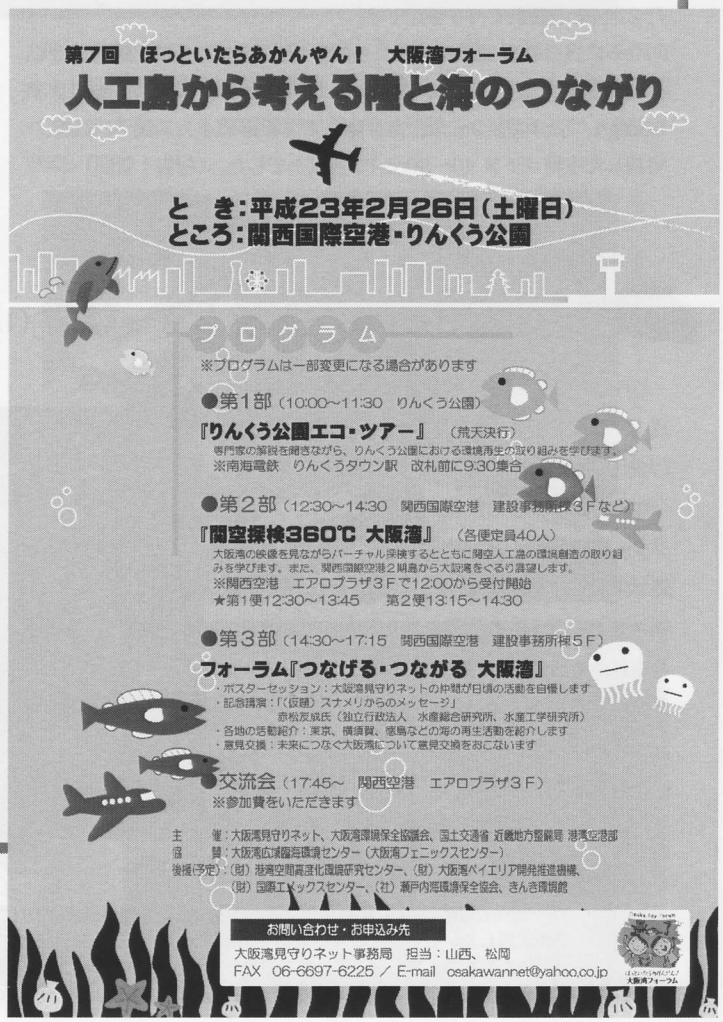
第１部　10：00～12：00 「りんくう公園エコツアー」
10 時出発。大阪府農林水産センター鍋島先生の先導で周辺環境を散策します。
りんくう公園内の内海における自然再生の取り組み紹介（大阪府大 大塚教授）、マーブルビーチ散歩など。
参加費無料。りんくうタウン駅の改札を出た所に 30 分前にお集まりください。

第２部　12：30～14：30 「かんくう探検 360° 大阪湾」
12：30　受付開始（参加無料、予約は取りませんので当日現地にお集まりください）
会場＝ホテル日航関西空港横「エアロプラザ」3 階特設会場
13：00　関空２期島見学（定員 120 名）
関空の海中観察（ビデオ映像鑑賞）

第３部　14：30～17：20 「フォーラム
つなげるつながる大阪湾」
14：30　大阪湾における活動団体の紹介
15：00　記念講演「スナメリからのメッセージ」
（水産総合研究センター 赤松友成氏）
15：40　各地の自然再生活動紹介（横須賀市他）
16：40　意見交換会
17：10　まとめ（17：20 終了予定）

第４部　18：00～19：30　懇親会（会費 3000 円程度）

問合せ＝釣り文化協会事務局萱間まで（tel06-6358-4414）



JOFI 大阪は大阪湾見守りネットの主旨に賛同し
参加しています！